

## 学長定例記者会見要項

日 時： 2019年3月19日（火） 14：00～14：45  
場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

### 発表事項

1. 4月1日付け人事異動について
2. ながいアクティブキッズプロジェクトが文部科学大臣表彰受賞
3. 山形大学の博士課程教育リーディングプログラムが最高評価  
～文部科学省平成24年度採択プログラム事後評価結果～
4. 学生が提案する地域活性化策をブックレットにまとめ発刊  
～大石田町での「街宿」と「移住」～
5. 第37回上野の森美術館大賞展で本学学生が入選・賞候補

### お知らせ

1. 入学式取材のお願い
2. 小さな科学者・体験学習会「わくわく化学実験ランド」を開催します。

### （参 考）

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時： 2019年4月4日（木） 11：00～11：45

場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

## 学長定例記者会見（3月19日）発表者

### 1. 4月1日付け人事異動について

学長

こやま きよひと  
小山 清人

### 2. ながいアクティブキッズプロジェクトが文部科学大臣表彰受賞

学術研究院 教授（保健体育科教育学／地域教育文化学部担当）

すずき かずひろ  
鈴木 和弘

長井市教育委員会 学校教育課指導主事

ささき ひろゆき  
佐々木 宏之

山形大学客員研究員（松戸市小金中学校養護教諭）

しもた まさこ  
霜多 正子

### 3. 山形大学の博士課程教育リーディングプログラムが最高評価 ～文部科学省平成24年度採択プログラム事後評価結果～

学術研究院 准教授（フレックス大学院プログラム教務担当）

ふるさわ ひろゆき  
古澤 宏幸

### 4. 学生が提案する地域活性化策をブックレットにまとめ発刊 ～大石田町での「街宿」と「移住」～

人文学部 3年

あべ ゆうみ  
阿部 優美

〃

あんどう ともみ  
安藤 智珠

〃

よこた かずき  
横田 一樹

### 5. 第37回上野の森美術館大賞展で本学学生が入選・賞候補

地域教育文化学部4年

くまがい なな  
熊谷 菜々

学長記者会見用資料

山形大学人事異動(平成31年4月1日)

<法人部局・大学部局>

職名	氏名
附属学校運営部長	鈴木 亨
地域教育文化学部長	大森 桂
地域教育文化研究科長	大森 桂
理学部長	大西 彰正
学士課程基盤教育機構長	千代 勝実

<本部事務部・部局事務部>

職名	氏名	前職
エンrollment・マネジメント部長	高橋 淳	飯田キャンパス事務部学務課長
財務部長	前田 賢二	愛知教育大学企画・財務部長
飯田キャンパス事務部長	久保 公四郎	大阪大学医学部附属病院総務課長
鶴岡キャンパス事務部長	奥山 利弘	鶴岡キャンパス事務長
教育・学生支援部学務課長	松田 敦子	小白川キャンパス事務部学生・キャリア支援課長
財務部財務課長	九鬼 陽子	佐賀大学財務部財務課長
小白川キャンパス事務部学生・キャリア支援課長	千葉 善弘	鶴岡工業高等専門学校総務課長
飯田キャンパス事務部学務課長	長南 靖	米沢キャンパス事務部総務課長
米沢キャンパス事務部総務課長	篠塚 清幸	企画部研究支援課副課長
米沢キャンパス事務部研究支援課長	矢萩 信美	財務部財務課副課長
エンrollment・マネジメント部上席専門員 (ファンドレイザー)	樋口 浩朗	エンrollment・マネジメント部上席専門員
総務部法務支援室上席専門員	佐竹 弘顕	企画部企画課副課長

<附属学校>

職 名	氏 名	前 職
附属小学校校長	樋口 潤一	山形県教育庁総務課企画調整専門員
附属小学校教諭	高橋 茜	山形市立第二小学校教諭
附属小学校教諭	芦野 繁樹	山形市立楯山小学校教諭
附属小学校教諭	後藤 啓太	山形市立第三小学校教諭
附属中学校教諭	櫻井 真理	東根市立大富中学校教諭
附属中学校教諭	水田 怜樹	尾花沢市立尾花沢中学校教諭
附属中学校教諭	鈴木 克希	山形市立第五中学校教諭
附属中学校養護教諭	千葉 久美子	山形市立鈴川小学校養護教諭
附属特別支援学校校長	高橋 真琴	鶴岡高等養護学校教諭
附属特別支援学校教諭	山口 孝夫	米沢養護学校教諭
附属特別支援学校教諭	荒井 亜矢子	ゆきわり養護学校教諭

平成31年(2019年)3月19日

## ながいアクティブキッズプロジェクトが文部科学大臣表彰受賞 ～平成30年度「早寝早起き朝ごはん」運動の推進～

### 【本件のポイント】

- 本学の鈴木和弘教授（保健体育科教育学）が中心となり、長井市と連携して実施しているプロジェクトが「早寝早起き朝ごはん」運動の推進にかかる文部科学大臣表彰を受賞
- 「よく動き、夢中で遊び、いっぱい食べて、ぐっすり眠る」を子どものライフスタイルの基本ととらえて、平成25（2013）年度から児童センターや保育園などで実践してきた。
- 今回の受賞は本プロジェクトを含む53活動。3月7日（木）に東京で表彰式が行われた。



### 【概要】

山形大学学術研究院の鈴木和弘教授（保健体育科教育学／地域教育文化学部担当）が中心となり、長井市と推進しているプロジェクト「ながいアクティブキッズプロジェクト」が、平成30年度「早寝早起き朝ごはん」運動の推進にかかる文部科学大臣表彰を受賞することが決定しました。このプロジェクトでは、子ども達の望ましいライフスタイルを「よく動き、夢中で遊び、いっぱい食べて、ぐっすり眠る」とし、この生活リズムのサイクルを確立させることで、アクティブな子どもの育成を目指しています。鈴木教授は、プロジェクト委員会の委員長として、このプロジェクトを牽引し、本学の教員・学生らとともに、長井市の児童センターや保育園、幼稚園において、運動遊びの指導や体力測定などを実施してきました。

このたびの受賞は「早寝早起き朝ごはん」運動などの子供の生活習慣づくりに関する活動のうち、その活動が他の活動と比較して顕著に優れ、地域全体への普及効果が高いと認められたもので、平成31(2019)年3月7日に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、表彰状が授与されました。

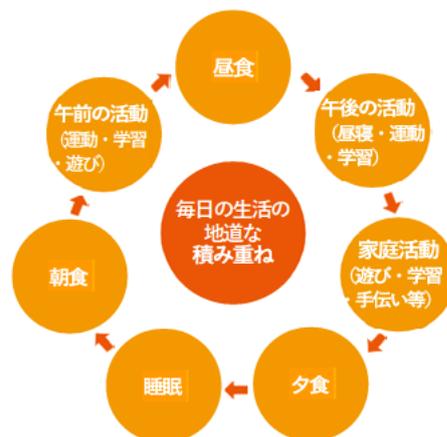
### 【ながいアクティブキッズプロジェクト（ながいAKP）】

平成25（2013）年度から3年間の文部科学省の委託事業としてスタート。体力測定やアンケートを実施した上で、幼児の発達段階に応じた運動遊びや多様でバランスのとれた活動の提案・指導などを実施してきました。このプロジェクトで開発した「幼児のための多様な運動遊びプログラム」による継続的な活動が小学校入学後の体力にも好ましい影響を与えるなどの研究成果も出ており、委託事業終了後も長井市と連携してプロジェクトを継続中。今年度で6年目の取り組みです。

### 【「早寝早起き朝ごはん」運動の推進にかかる文部科学大臣表彰】

文部科学省では、子供たちの健やかな成長のためには適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠など基本的な生活習慣が大切であることに鑑み、その定着に向けた取組の一層の推進を図ることを目的に、標記表彰制度を平成24年度に創設し、隔年で実施しています。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/asagohan/1413410.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/asagohan/1413410.htm)



#### 生活リズムの風車

①体と頭を目いっぱい使って活動に取り組む ②お腹がすいてたくさん食べる ③力を出し切ることでぐっすり眠る ④朝はスッキリ目覚める。このサイクルを確立し、風車をうまく回せる子どもを育成し、気力 体力 学力の向上を図る。

#### お問い合わせ

学術研究院 教授 鈴木和弘（保健体育科教育学／地域教育文化学部担当）

TEL 023-628-4452 メール [suzukikazuhiro@mac.com](mailto:suzukikazuhiro@mac.com)

平成31年（2019年）3月19日

## 山形大学の博士課程教育リーディングプログラムが最高評価 ～文部科学省平成24年度採択プログラム事後評価結果～

### 【本件のポイント】

- 文科省事業実施期間の7年間のうち、4年目に中間評価、最終年の7年目に事後評価（総合評価）が行われ、フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院は、中間評価に引き続き、最高評価の「S」を獲得。
- 平成24年度の採択プログラム全24件のうち、「S」評価は7件のみ。オンリーワンプログラム5件の中では、本学のみが「S」評価。
- 文部科学省による事業期間終了後もプログラムを継続し、卓越した専門性のみならずグローバルに活躍できる創造性と主体性を兼ね備えた人材の育成を図る。



プログラム1年次生のスタートアップWS

### 【概要】

山形大学では、文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」<sup>(※1)</sup>の事業採択を受け、5年一貫の博士課程教育プログラム「フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院」において、高度な専門性、実践的価値創成力及びグローバル企画コミュニケーション能力を持つ「価値創成グローバルリーダー」を養成する事業に取り組んできました（事業実施期間平成24年度～平成30年度）。国際的な研究拠点である有機エレクトロニクス研究センターなどの本学が誇るユニークな世界的教育研究資源を集結して教育を行うもので、修了した一期生9人は博士の学位を取得し、国内外の研究機関や、産業界等で広く活動しています。

本プログラムは、実施4年目の中間評価でも「S」という高い評価を得ていましたが、事業最終年の今年、事後評価（総合評価）が行われ、4段階のうち最高評価である「S」を獲得しました。非常にレベルの高い研究論文を執筆し、広い視野と国際的な感覚を備えた博士人材の育成に成功していることなどが高く評価されました。

### 【5年一貫の博士課程教育プログラム「フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院」】

このプログラムは、産学官領域において活躍する2つの能力、フロンティア有機材料システム分野創成に挑戦する「創造性」とグローバルリーダーとしての「主体性」を備えたグローバルリーダーを育成するプログラムです。山形大学が世界のフロントランナーを擁する有機エレクトロニクス、ポリマー研究をコアとして、電気電子、機械システム等の関連分野で国際的に活躍する教員や、関連企業の第一線研究者を結集し、教員-企業間や山形大学・海外提携大学間の最先端共同研究を実践的教育の場に活用することも含めた、高度かつ国際的な教育研究活動を展開しています。

これまでに9人の学生が修了し、国内外の研究機関や産業界等で広く活躍しています。

### 【評価について】

文科省事業実施期間の7年間のうち、4年目に中間評価、最終年の7年目に事後評価（総合評価）が行われ、4段階（S・A・B・C）で評価されます。S評価の基準概略は「計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる」となっています。

※平成24年度採択全プログラム数24のうち、S評価7、A評価10、B評価7、C評価0

### 【今後の展望】

文部科学省から高い評価を受けた本プログラム教育内容をベースに、本学独自の新たな博士5年一貫教育プログラムを全学展開し、高度な基盤力を持った博士リーダー人材育成を継続します。

お問い合わせ

山形大学工学部フレックス大学院事務室（森谷）

TEL 0238-26-3834 メール ifront@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

## ※用語解説

### 1. 博士課程教育リーディングプログラム：

優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する事業です。

養成すべき人材像及び解決すべき課題の分類に応じ、「オールラウンド型（オールラウンドリーダー養成）」「複合領域型（複合領域リーダー養成）」「オンリーワン型（オンリーワンリーダー養成）」の3つの類型で公募が行われました。本学の「フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院」プログラムはオンリーワン型で採択されています。

## 博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

<b>機 関 名</b>	山形大学	<b>整理番号</b>	O02
<b>プログラム名称</b>	フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院		
<b>プログラム責任者</b>	大場 好弘	<b>プログラムコーディネーター</b>	飯塚 博

### 博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

#### [総括評価]

計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

#### [コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、本プログラムを通じて有機材料という広い分野を俯瞰的に考える教育研究環境が整えられ、学生の自主性を重視した海外インターンシップ等が着実に実施されている。その結果、非常にレベルの高い研究論文を執筆し、広い視野と国際的な感覚を備えた博士人材の育成に成功している。オンリーワン型に相応しい特色ある充実した教育プログラムが完成されたと高く評価できる。優秀な学生の充足数確保は困難であったが、高専学生の受入れを含め多大な努力がなされた。今後、優秀な学生を確保するための継続した取組が期待される。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、学生は本プログラムで鍛え上げられ主体性・国際性・俯瞰力・問題解決能力を養うとともにネットワークを構築し、意識を高め確実に成長していると高く評価できる。多くの優れた研究成果を得ており、学会賞等受賞が多いことも特筆に値する。学生の満足度は概ね非常に高い。修了者は、国内外のアカデミア、産業界等に広く活動の場を広げており、博士課程教育リーディングプログラムの目的である「専門分野の枠を超えて全体を俯瞰し社会的課題の解決に導く高度な人材の育成」という観点での人材育成に成功している。

事業の定着・発展については、有機材料に特化した現在のプログラムが、理・医学系にも展開され、国内外で実施したインターンシップの継承など、規模は縮小するものの、大学全体で本プログラムの成果を共有する体制が着実に整備されつつある。研究力の高い有機材料分野を中心にオンリーワンのカテゴリーで事業を展開したが、その活動が全学の教育研究に大きな改革をもたらし、大学全体の活力を大きく押し上げるなど、計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られたことから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。なお、今後の本プログラムの継続的発展のために学生確保については更なる努力が望まれる。

博士課程教育リーディングプログラム 平成24年度採択プログラム  
事後評価結果一覧

類型	整理番号	プログラム名	機関名	プログラム コーディネーター名	共同実施 機関(※)	総括評価
オールラウンド型	G01	グローバルリーダー教育院	東京工業大学	中村 聡		B
	G02	PhDプロフェッショナル登龍門	名古屋大学	杉山 直		S
複合領域型 (環境)	H01	グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学リーディング大学院の創設	東京農工大学	有江 力		B
	H02	グリーンアジア国際戦略プログラム	九州大学	谷本 潤		A
複合領域型 (生命健康)	I01	充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム	京都大学	福山 秀直		B
	I02	グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラムHIGO	熊本大学	小椋 光		S
複合領域型 (物質)	J01	統合物質科学リーダー養成プログラム	東京大学	川崎 雅司		S
	J02	インタラクティブ物質科学・カデットプログラム	大阪大学	芦田 昌明		A
	J03	分子システムデバイス国際研究リーダー養成および国際教育研究拠点形成	九州大学	安達 千波矢		S
複合領域型 (情報)	K01	ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム	東京大学	國吉 康夫		A
	K02	デザイン学大学院連携プログラム	京都大学	石田 亨		A
	K03	ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム	大阪大学	清水 浩		S
複合領域型 (多文化 共生社会)	L01	文化資源マネージャー養成プログラム	金沢大学	鏡味 治也		B
	L02	未来共生イノベーター博士課程プログラム	大阪大学	志水 宏吉		A
	L03	グローバル・リソース・マネジメント	同志社大学	内藤 正典		A
複合領域型 (安全安心)	M01	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム	東北大学	湯上 浩雄		B
	M02	災害看護グローバルリーダー養成プログラム	高知県立大学	山田 覚	兵庫県立大学、東京医科 歯科大学、千葉大学、日 本赤十字看護大学	B
複合領域型 (横断的テーマ)	N01	フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム	名古屋大学	田島 宏康		A
	N02	リーディング理工学博士プログラム	早稲田大学	朝日 透		S
オンリーワン型	O01	レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム	秋田大学	柴山 敦		B
	O02	フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院	山形大学	飯塚 博		S
	O03	免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム	千葉大学	斎藤 哲一郎		A
	O04	数物フロンティア・リーディング大学院	東京大学	儀我 美一		A
	O05	熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム	長崎大学	森田 公一		A

※共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名

平成31年（2019年）3月19日

## 学生が提案する地域活性化策をブックレットにまとめ発刊 ～大石田町での「街宿」と「移住」～

### 【本件のポイント】

- 学生が1年半にわたり大石田町で活動し、2グループがそれぞれに施策提案をまとめ、ブックレットを発刊した。
- 豊かな地域資源と優れた交通結節性を有していながらも観光客や移住者を誘引できていない大石田町に学生の斬新なアイデアを提案することで、膠着しがちな町の施策を違った角度から考えるきっかけを作った。
- 学生にとっては、視察やイベント参加で終わる活動ではなく、文献講読や統計解析を行いながら、1つの町の地域課題をじっくり考え、自分達でその解決策を提案したことで、課題解決の施策を提案する難しさや、やりがいを実感できた。



大石田町での成果報告

### 【概要】

山形大学の山田浩久教授（地誌学／人文社会科学部担当）は、尾花沢市・大石田町広域連携推進協議会から委託を受け、学生による地域課題解決事業に取り組んできました。大石田町での調査は、2017年度から「都市地理学調査実習」の受講生を中心に、およそ1年半にわたり行ってきました。学生たちは、2つのグループにわかれ、小規模市町村の移住政策、観光政策の2つの課題の解決に向けて、現地調査や授業での検討を重ねてきました。学生たちが、学生ならではの斬新な感覚で立案した2つの地域活性化施策は、2月21日に大石田町へ報告を行ったところです。このたび、活動の成果をブックレットにまとめ、発行しました。

### 【取り組み内容】

本年度の活動に参加した学生は8名。人文社会科学部の「都市地理学調査実習」（担当：山田浩久教授）の受講生を中心に、大石田町での調査を行い、小規模市町村の移住政策、観光政策の2つの課題の解決に向けて、検討をすすめてきました。学生ならではの斬新な感覚に基づき、立案した2つの地域活性化施策は、2019年2月21日に大石田町役場活での報告会を経て、ブックレットにまとめました。

#### <観光班>「みんなが主役になれるまち大石田～あなたが創る旅物語～」

観光施策の立案に取り組んだ5名は、宿泊施設が少ないことが同町に観光客が定着しない原因であると考えました。民泊、農泊に加え大石田商人の旧家を活用する「商泊」を客室に位置づけ、町全体で観光客を受け入れる『街宿』を提案しました。街宿は、イタリアで実践されている「アルベルゴ・ディフーズ」（分散型ホテル）の考えを取り入れた地域活性化策であり、大石田版「アルベルゴ・ディフーズ」と言い換えることもできます。

#### <移住班>「アクティブ・シニアを対象にした移住の提案～セカンドライフを大石田（ここ）で～」

移住施策の立案に取り組んだ3名は、生涯活躍のまち構想（日本版 CCRC）によって、地方への移住者が今後増加すると考え、元気なアクティブ・シニアをターゲットにした移住施策を提案しました。学生達は、同町の魅力を知る上でも、同町での生活に不安を感じないためにも、移住を計画するアクティブ・シニアが実際に町内で生活する必要があると考え、四季に合わせた『おためし移住』を提案しました。また、移住予定者を真に安心させるためには、おためし移住期間における住民との交流が重要であることを主張しました。



お問い合わせ

山形大学学術研究院 教授 山田浩久（地誌学／人文社会科学部担当）

Tel/Fax: 023-628-4246 E-Mail : hyamada@human.kj.yamagata-u.ac.jp

平成31年（2019年）3月19日

## 第37回上野の森美術館大賞展で本学学生が入選・賞候補

### 【本件のポイント】

- 第37回上野の森美術館大賞展で、熊谷菜々さん（地域教育文化学部4年）の作品が、843点(625人)の応募作品の中から142点(141人)の入選作品に選ばれました。更にその中の優秀な作品として賞候補作品35点のひとつにも選ばれました。
- 上野の森美術館大賞展は将来の日本の美術会をになう、個性豊かな作家を顕彰助成する公募展として、上野の森美術館が主催する全国公募展。1983年（昭和58年）から毎年開催されており今回で37回目を迎える展覧会です。
- 本学学生の入選は初めて。



応募した2点の作品（卒業制作展での展示の様子）

### 【概要】

第37回上野の森美術館大賞展で地域教育文化学部造形芸術コース4年生の熊谷菜々さんが初出品し、初入選・賞候補となりました。上野の森美術館大賞展は将来の日本の美術会をになう、個性豊かな作家を顕彰助成する公募展として上野の森美術館が主催し、1983年より毎年開催されている歴史ある全国公募展で、熊谷さんは卒業制作のひとつとして制作した絵画作品2点を初出品しました。今回の37回展には全国から625人、843点の応募があり、入選に選ばれたのは142点（141人）。熊谷さんの作品は、1点《農村之猫群〈右〉》が入選作品に選ばれ、さらに入選作品の中から賞候補作品として絞り込まれた優秀な作品35点にも選ばれました。惜しくも絵画大賞1点・優秀賞4点には選出されませんでした。4月27日から開催される同美術館での入賞者展、6月18日から行われる京都文化博物館での巡回展に展示されます。



### 《農村之猫群〈右〉》

造形芸術コース4年 熊谷 菜々

膠・赤金粉

1620mm×1300mm

2019年制作

### 【第37回上野の森美術館大賞展】

会期 2019年4月27日(土)～5月8日(水) <予定>

時間 10:00～17:00 開館（入場は閉館30分前まで）

会場 上野の森美術館

※詳細はWebサイトをご覧ください。 <http://www.ueno-mori.org/exhibitions/main/taisho/>



お問い合わせ

学術研究院教授 小林 俊介（地域教育文化学部担当）

TEL 023-628-4329 メール shun@e.yamagata-u.ac.jp

2019年3月19日  
山形大学

\*詳細は別添の資料をご覧ください。

## 1. 山形大学入学式の取材に対するお願い

山形大学、各附属学校園において挙げる入学式についてご案内します。取材の際は、式典の円滑な進行にご協力くださいますようお願いいたします。

## 2. 小さな科学者・体験学習会「わくわく化学実験ランド」を開催します

科学技術週間に開催しているイベントです。身近な物に隠れている化学の面白さを紹介します。

日時：2019年4月20日（土）10:00～12:00

場所：山形大学SCITA（サイタ）センター（小白川キャンパスB1）

※これまでの定例会見でお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

## ◎「山形大学SCITAセンターサイエンスカフェ」を開催 ～大人も子どもも自然科学を楽しく語ろう～

世代間でより科学を身近に感じ楽しんでもらうため、大人を対象としたサイエンスカフェ、子どもを対象とした科学実験イベントを同時開催します。

日時：2019年3月26日（火）14:00～16:00

場所：山形大学小白川キャンパスA5（基盤教育3号館）1階オープンスペース

平成31年（2019年）3月19日

## 山形大学入学式の取材に対するお願い

### 【本件のポイント】

- 各会場では、係員の指示に従っていただき、式典の円滑な進行にご協力をお願いいたします。
- 学長告辞については当日に配付いたしますが、式終了後に公表願います。
- 事前の取材申し込みは不要です。



### 【概要】

2019年度入学式を山形大学並びに各附属学校園において挙行いたします。式当日の取材に際しては、壇上での撮影は差し支えありませんが、式進行の妨げとなるような行為は慎んでいただき、円滑な進行にご協力をお願いいたします。

また、学長告辞については当日に配付いたしますが、式終了後に公表願います。

### 【山形大学】

日時：平成31年（2019年）4月3日（水）10：30開式

会場：山形県体育館（山形市）

式次第：

1. 開式のことば
2. 山形大学大学歌斉唱
3. 学長告辞
4. 入学生宣誓
5. 役員等紹介
6. 閉式のことば

備考：式典終了後、引き続き以下のとおり予定しております。

- ・YU Do Best 奨学生証授与
- ・学生生活について
- ・歓迎セレモニー（花笠踊り及び山形大学学生歌披露）

### 【附属学校】

#### ●附属幼稚園

日時：平成31年4月11日（木）10：00開式

会場：附属幼稚園遊戯室

#### ●附属小学校

日時：平成31年4月8日（月）9：30開式

会場：附属小学校体育館

#### ●附属中学校

日時：平成31年4月8日（月）13：30開式

会場：附属中学校体育館

#### ●附属特別支援学校

日時：平成31年4月10日（水）10：30開式

会場：附属特別支援学校体育館

お問い合わせ

総務部総務課（総務担当）TEL 023-628-4006

平成31年（2019年）3月19日

## 小さな科学者・体験学習会「わくわく化学実験ランド」を開催します。

### 【本件のポイント】

- 毎年、科学技術週間に開催しているイベントです。身近な物に隠れている化学の面白さを紹介します。
- 今年は、元素の発見の物語などの周期表に関するトリビアを紹介します。
- 国際周期表年2019のイベントです。



### 【概要】

山形大学理学部では、毎年、科学技術週間に化学実験を親子で体験する教室を開催してきました。今年は、メンデレーフが周期律を発見してから150周年に当たります。UNESCOによって国際周期表年（International Year of the Periodic Table of Chemical Element: IYPT）と宣言され、世界中でIYPT2019のイベントが開催されています。山形でも周期表の美しさ、不思議さを実験を通して味わっていただきます。お申し込みは、ホームページの専用申込フォームからのみ受け付けます。申込期限は、4月5日（金）までです。

### 【小さな科学者・体験学習会「わくわく化学実験ランド」】

- 日時 4月20日（土）10：00～12：00
- 対象 小学4～6年生およびその保護者 20組（先着順）
- 会場 山形大学 SCITA（サイタ）センター（山形市小白川町1-4-12）
- 受講料 無料
- 内容 周期表に関する実験  
分光器を使う炎色反応  
水の電気分解で水素から酸素をつくる など
- 申込 ホームページの専用申込フォームからお申し込みください。（WEBでのお申し込みのみ受付）  
<https://www.sci.yamagata-u.ac.jp/news/event/wakuwaku2019/>



国際周期表年 中高生の元素に関するエッセイコンテストを始め、様々なイベントが計画されています。  
<https://iypt.jp/news/index.html>

山形大学 SCITA センターも協賛団体として登録されています。

科学技術週間 科学技術について広く一般の方々に理解と関心を深めるように、全国の関係機関において講演会、展覧会などさまざまな催しが開催されています。「一家に1枚」シリーズを作成しており、元素周期表もダウンロードできます。  
<http://stw.mext.go.jp/>

### お問い合わせ

小白川キャンパス総務課学部総括（理学部担当）伊藤

TEL 023-628-4505 メール [event@sci.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:event@sci.kj.yamagata-u.ac.jp)